

労山愛知

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

2018年4月5日発行

No. 544 (第50期1号)

〒454-0055

名古屋市中川区十番町2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX 052-654-1210

<http://aichirousan.web.fc2.com/>

第50期 愛知県連定期総会 開催

3月4日(日)第50期県連定期総会が、県連事務所において開かれました。今回は来賓として全国連盟から川嶋事務局長を迎え、県連役員、理事、各会から代議員が参加し、議案について討議しました。(p.3~詳報)

また終了後に「荣誉功労賞」の表彰式も行われました。



《目次》	第50期愛知県連総会 開催	1
	第50期県連役員からのご挨拶(会長、理事長)	2
	第50期県連総会 議事録	3~6
理事会	2月17~18日全国連盟第33回総会に出席して来ました	6~8
自然保護部	6月3日は第46回鈴鹿山系清掃登山!	8
遭対部	4月13日、春山合宿遭対連絡会議を行います	8
	2月9日(金)、第5回遭難対策担当者会議を開きました	8~10
事務局	お願い「求む 掃除機!」/編集後記	10
	年間カレンダー	11~12

第50期県連役員からのご挨拶

50年目の愛知県連

愛知県勤労者山岳連盟 会長 森 和之(東三河山ぼ会代表)

先日3月4日の総会において、50期愛知県勤労者山岳連盟の会長となりました、東三河山ぼ会 森 和之と申します。

今年で3期目となります。最後の年です。

はからずも、会長となり、2年が経過しました。この間会員は150名の減により、1000名を割ろうとしています。それに伴い財政のよりいっそうの悪化。また、清掃山行は再構築せねばならない事態。50年目を迎えた愛知県連。前途多難ではありますが、手をこまねいているわけにはまいりません。組織を活性化させ、会員をふやすためには、なにをしたら良いか。過去に学び、現状を認識し、将来に向けた方向性を探る。今年11月23,24両日愛知県民の森において愛知県連主管にて第17回「全国登山研究集会」が開催されます。時間はあまりありませんが、この行事を企画・遂行していく中で、上記問題を解決していく道が見出せればという思い、皆さんの登山への動機づけの向上につなげたいと思っています。

また、登山学校4月1日(日)の開校日は、前会長の洞井さんが「労山運動の理念」というテーマで08・30～講義を行います。「全登研」に向けて、登山学校受講生でなくても開放されていますので、是非聞きに来てください。

「事故事例集」も何とか遭対部・編集委員会の方のご苦勞で、前期2月の全国総会に間に合うタイミングで発行されました。各地の連盟の方々から良くできていますねとお褒めの言葉もいただきました。今期はこれを大いに活用し、事故予防に役立てて頂きたいと思っております。使い方によっては、いろんな技術書に勝る教本になりうると思っております。

前期にも書きましたが、県連(労山)は各会があつてこそその組織であり、上意下達ではありません。自由な発想でよりよい登山文化を醸成できうるのが、労山理念の基本だと思っています。このような組織を守り育てていくためにも各会積極的な取り組みをお願いします。

私もやれることは何でもやる覚悟ですので、今期もよろしく願いいたします。

50期をむかえて

愛知県勤労者山岳連盟 理事長 佐藤 和男(あつた勤労者山岳会)

50期県連総会で新しく理事長に選出されたあつた勤労者山岳の佐藤和男といたします。今期の総会で思うことは、はじめに清掃登山の取り組みの現状を見てもう一度初心に戻り理事会を挙げて取り組まなければならないと思っております。それから今年の11月23日~24日の2日間で開かれる第17回全国登山研究集会を愛知県連盟が主管で行われます。目的は①労山理念の普及と組織拡大による労山運動の継承、②日本の登山文化・登山技術の継承、③国民が求める多様な登山要求への対応などです。まだ具体的な内容、分科会などは決まっていますが、愛知県連として、各会の皆さんの協力を経て取り組んでいきたいと思っております。他にも組織拡大の停滞は、会の活動や県連の活動が消極的になっていく一因と思っております。「プラス1」運動をさらに取り組んでいく必要があると思っております。やらなければいけないことは沢山ありますが総会で出された各会の代議員皆さんの意見を反映させて、今期の愛知県連の取り組んでいきたいと思っております。

力不足の面もあると思っておりますが、頑張っていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

愛知県勤労者山岳連盟 第50回定期総会 議事録 (2018.3.4)

- 9:30 会長挨拶 森会長
 全国連盟・川嶋事務局長: 全国登山研究集会在 11 月に愛知にて開催。愛知労山の平均年齢は 57 歳と若い。活力のある県連ではないか。今年愛知県連主幹で全国登山研究集會を開催します。これが「組織拡大・安全登山」の契機になればよいです。
- 9:32 来賓挨拶
 資格審査委員: 前川(春日井峠)・廣田(山岳同志会)・岩田(スルジェ)
- 9:38 総会役員
 議長: 平松(じねんじょ)・八木(スルジェ) 書記: 吉田(くらら)・横田(ふわく)
- 出席報告 9:30 現在 出席(42名)・委任状(1名)で 43名。 代議員総数 47 に対して過半数出席で総会成立。

【第1号議案】 総括と方針

- 9:43 理事長 本田(スルジェ) 議案書(P1~3) 参照
- 9:58 女性部 石井(東三河) 議案書(P13) 参照 Q&A: なし
- 10:03 事務局 吉川(同志会) 議案書(P3~6) 参照
- 10:18 教育部 佐藤(あつた) 議案書(P7) 参照
- 10:25 遭難対策部 望月(ふわく) 議案書(P8~11)・資料集(P17~19) 参照 10:43~10:55(休憩)
- 10:55 自然保護部 田中(あつた) 議案書(P11~12) 参照
- 11:06 組織部 吉川(同志会) 議案書(P14~16) 参照
- 11:16 財政 脇田(じねんじょ) 議案書(P16~17)&別紙財政シミュレーション参照
- 11:30 質疑応答
 Q: 「私たちをめぐる社会状況について」報告してないのはなぜか? リニアの署名運動が遅れたのはなぜか? (飯田・おやこ)
 A: 各理事に任せてあった。申し訳ない。(本田)
 Q: ①理事会開催について負担減と言いながら、日曜日開催では山に行けず負担減になっていないのではないかと? ②民主的な運営を強調しているが、理事会にそのような状況はあるのか。③事務局会議は以前の常任理事会の様な御前会議のような 40 年前の運営に戻そうというのではないかと。(洞井)
 A: ①平日夜の理事会では時間が短く議論が尽くせないことがある為、昨年 12 月に日曜日開催を試行している。年 3 回の土曜日理事会で負担になるほどではない。②民主的な運営とはただ単に会議の発言を保障すれば良い、というだけではない。一人一人を大切にする、お互いを尊重する、お互いの自主性や主体性を尊重する、ということの前提で成り立っている。労山も社会的な存在であり、民主的でない傾向が持ち込まれることは避けられず、絶えず強調する必要がある。③昨年からの事務局会議を行う運営にする時、心配していたのは以前の常任理事会のようにならないようにすることであり、その為の内部的な文書も整備している。
 Q: 議案書 P5-(4)京都府連との交流を報告しているが、京都府連の富士山での事故を知っていて教育を評価して交流したのか(飯田・おやこ)
 A: 京都府連が 1000 名を超えたということでその経験を学びに交流した。事故という一つの問題を以て京都府連のすべてを判断するわけではない。
 意見: 京都の報告はいいが、議案書に載せることが問題である。(洞井・半田)
- 昼休憩 12:10~13:00
- 13:00 教育部 教育部: 現段階での登山学校の申込み状況(C-8・M-5)募集中。
 Q: 教育部の登山学校運営検討について。県連の中での登山学校の位置付け・役割等を総括してからお金の動かし方を討議して欲しい。登山学校は初級リーダ養成のための養成講座を行っていたのを継続希望があつたことから小規模で対応し現在の形になってきた。講座では労山理念よりスタートし、登り

屋だけを育てるのではない。県連の役に立つ幹部を育てることが目的である。受講生の人数の増減はあるので経営の為プールは必要である。憶測で判断しないですべてを知ったうえで議論して欲しい。(洞井・半田)

A: コーチ会議出席者 2 名と教育部 2 名で検討している。県連全体をどう発展させていくかを考える。(本田)

Q: 事実に基づいて欲しい。知らないのに改革案が書かれている。県連として学校をどうしていくかを考えていく必要がある。

意: 学校の記述が少ないのが問題。コーチ会議に聞いてくれでなく、オープンに表してないことが問題である。(弘中・春日井峠)

A: 理事会の問題である。教育部がつかみ公表していく。(本田)

Q: 学校の卒業生・関係者はどれくらいいるのか?(加藤・あつた)(議長より挙手にて確認した。)

Q: 11 月の「全国登山研究集会」の準備は進めているか?(洞井)

A: 全登研の準備は今から始まるのである。(本田)

13:42 遭対部

Q: 事故事例集の発行はなぜ遅れたか?(飯田)

A: 2017 年の事故事例を追加した。23 年間のものをまとめたので、過去の事故の経緯がわかる人が減っている中で事例集のとりまとめをしてきた。理事会で開示し意見をまとめ時間を要した。(望月)

自然保護部

Q: 菰野町や観光協会への対応・自治体交渉において、清掃登山の意義や経緯をよく理解して当ることが大切。6 月の清掃登山は、自然保護の運動であり清掃だけではない。

A: 自治体(菰野町)からは疎まれている。協力してくれの要求が労山にあると受け取られている。

町はゴミ収集車を手配しない。ゴミを持ち込まなければならない。来期からはロープウェイの協力が得られない。三重労山・松阪労山は名前だけで、ほとんど活動していない。(田中・あつた)

意: 運動を理解し、構築したうえで自治体交渉をし、市として協力してほしいと説得することが必要。

女性部

Q: 婦人部から女性部への変更でどんな変化があったか?(飯田・おやこ)

A: 理事会では報告以上の把握はしていない。(本田)

意: 女性部の活動としてやってきた事が表れていない議案書であることが残念。各会に女性部の窓口を一人置いて欲しい。女性部にエネルギーをかけられる人を部長に!(二宮・みどり)

組織部

Q: P15④ 一般登山講座の目的は何ですか?(飯田)

A: 一つは労山の社会的責任として登山技術・知識を一般に広める、第二に労山の会の会員拡大を通じて受講生の登山者としての成長と登山要求の実現にある。(吉川)

Q: トムラウシの事故を受けて「事故を防ごう」が最初の目的である。(飯田)

Q: 受講生が 50 人から 19 人と減ったのはなぜか?(飯田)

A: ネット上でかなり募集されていたと思われる。(吉川)

Q: 感想文の開示が行われていたが、なぜない?(飯田)

A: アンケートを回収しており、集計はしており資料はある。(吉川)

意: 第 1 回から 6 回を担当した。電話での受講生からの Q&A を丁寧に実施してきた努力と、修了者からの口コミで受講生を確保してきた。net の力だけではない。(洞井)

SNS 山岳会・登山者の成長・県連では遅刻×・安全を徹底するのは当たり前

意: 平和行進について。愛知だけでなく全国の運動である。愛知平和行進ではだめ。ノートに記録をするよう各指示を出してほしい。少ないコースへの応援や人の振り分けなど努力をしてほしい。(飯田)

【第 2 号議案】 第 49 期決算(案)について

14:40 会計報告 (脇田) 資料集 P1-6 に沿って説明。

監査報告 (綿谷) 資料集 P7 のとおり。

【第3号議案】第50期決算(案)について

- 14:55 (脇田) 資料集 P10-12 沿って説明。
Q&A Q:特別基金に加入していない人もいるのに、全国連盟からの補助金を一般会計へ入れるのはいかかな
ものか。(飯田)
A: 次の役員会ではかり回答したい。(本田)
Q: 申請してもらうもの(登山学校の補助金)を一般会計に入れるのはおかしい。
「遭対基金に入りましょう」の呼びかけが必要だと思う。(飯田)
基金では、「安全対策のためにお金を支出しましょう」の考えを含め 20 万円を支出されている。(洞井)
- 15:25 Q; 11 月開催の「全国登山研究集会」の予算があがってないが…。(洞井)
- 休憩 A:予算は立ててない。基本は全国連盟からの補助や参加費で対応すると想定している。(脇田)
- 15:40 提案:「総会の名において、新特別基金加入促進を確認する」で如何?(望月)(提案を受け拍手で承認)
A: 予算を立てずに行動費等の必要な支出は予備費から仮払いした後に精算を考えている(脇田)
Q:個人立替・借入でできるのか?経験からいうと…しっかりと予算を立て・負担、準備を進めていく
必要がある。全国集会のとらえ方が問題。やる気はあるのか?と受け取れる。(洞井)
A: 県連の持ち出しはしない、という前提で予算の項は立てない。(本田)
Q:(支出内訳の予算立てすることは)必要である。(村田・スルジェ)
A: 予算としては、まだ何も論議されていない。これから。(本田)
議長: 予備費を「全国登山研究集会」の予算としてあてることでどうか? →拍手(承認)
Q:一般登山講座の交通費の内訳設定は何か?(加藤・あつた)
A: 講座スタッフ等、実技山行の CL・SL の交通費実費である。その他の会からの参加者はボランティア
である。講座の講師料や実技山行の CL・SL 料は支払っていない。(吉川)
Q:会計期間 2 月 6 日というのは違っているのではないか。
会計年度は約款(連盟規約)の改正が必要ではないか。(馬場・ふわく)
A:その通りである。(綿谷)
Q:東海ブロック預り金は監査対象になるのか。(馬場)
A:愛知県連の監査としては対象外。東海ブロックとして検討する必要がある。(綿谷)
意: 財政的に 1100 名位が分岐点の人数ではないかと思う。
(採決に先立ち、①1 号議案から京都府連との交流報告の部分の資料集に移す事、が報告された。)
- 16:06 【採決】 第1号議案 保留(2) 反対(0) 賛成(38) 議決されました。
第2号議案 保留(2) 反対(0) 賛成(38) 議決されました。
第3号議案 保留(4) 反対(0) 賛成(36) 議決されました。
- 16:13 第5号議案について説明(佐藤・あつた)
Q:全国連盟の副会長に推薦しなかった理由は何か?(内橋)
A:地方連盟の選挙で敗れた人を全国連盟の役員に推薦するのは相応しくないと報告し、理事会で協議
した。理事会では様々な意見・両論が出たため、採決せずに、議事録を送り全国連盟にての判断に委ね
た。後日再び愛知地連としてはどうか、の問いがあり、全国連盟の役員選出に関する規定に沿って回答
した。賛否片方の意見に沿っての回答はできない為、結果的には推薦できないこととなった。
A:理事会にて前記のような報告あり、理事長のみで判断は如何か?と議論したが時間切れとなった。
意:(前回総会での理事長選挙について)突然の対立候補による選挙はおかしい。(内橋)
意:(地連から)全国連盟の役員選出についての規定を作るべきではないか。(村田)
意:全国連盟の役員については、全国連盟から推薦が欲しい。(佐藤)

意:愛知と全国連盟ではその役割や人選は違う。洞井さんの果たしてきた役割は大きい。全国での役割ができる人材は少ない。(西尾)

意:理事会と登山学校の対立はまずい。県連執行部と相違がある人の全国連盟役員はまずい。(弘中)

意:前回の全国連盟総会で全国副会長になったのは、全国副会長 10 人体制から 3 人体制、地方理事を新たに設ける移行措置の中でのことであり、自作自演ではない。落選時に対立点があったわけではないし、同時に民主的でなかったわけでもない。(洞井)

意:一般登山講座では運営の仕方について提案したが、洞井氏に受け入れられなかった。長い間同じ人が県連のトップを務めることにより、様々な問題を生んできたのではないか。(弘中)

【採決】 第 5 号議案 保留(2) 反対(0) 賛成(39) 議決されました。

16:58 【第4号議案】役員選挙

立候補者に対し選挙を実施した。(次ページ参照)

17:15 選挙結果——立候補者全員信任された。

17:20 栄誉功労賞の表彰を行った。全国連盟事務局長より代理授与。

退任理事・信任理事のあいさつ。望月副会長より閉会の挨拶。

17:40 第 50 回定期総会終了

1	会長	森 和之	東三河	10	理事	西尾 克明	くらら
2	副会長	望月 敏仁	ふわく	11	〃	吉田 剛	くらら
3	理事長	佐藤 和夫	あつた	12	〃	岩田 健治	スルジェ
4	副理事長	廣田 猛	同志会	13	〃	榊原 昭夫	ありんこ
5	〃	森本 栄吉	半田F	14	〃	河村 恵子	春日井峠
6	事務局長	吉川 幸一	同志会	15	〃	山本 良夫	みどり
7	事務局次長	井土 伸一	東海山岳会	16	〃	田中 恵	あつた
8	財務部長	脇田 敏英	じねんじょ	17	会計監査	北川 芳一	くらら
9	理事	山本 佳市	犬山マップ	18	〃	綿谷 博昭	春日井峠

理事会 2月17～18日全国連盟第33回総会に出席して来ました

全国登山の第33回総会は2月17～18日に東京で開催されました。愛知県連からは、森会長、望月副会長(遭対部長)、吉川事務局長、脇田財政の4名が代議員として出席しました。

総会は、スローガンに「平和な社会で楽しく安全な登山を広げていこう!」を掲げ、主要な目的は①組織の強化と拡大②重大事故をなくす安全登山教育・訓練を強化する遭難対策活動③リニア問題、防災ヘリ有料

化問題など社会に訴える活動④平和と登山を追求し、登山文化を発展させる取り組み、でした。

当日、西本会長がリハビリ中で欠席し代わって佐々木副会長の開会宣言で始まりました。来賓として、日本山岳スポーツクライミング協会(山岳協会)八木原会長、日本山岳ガイド協会磯野理事長、日本ヒマラヤ協会山森会長、HAT-J内田理事、新日本スポーツ連盟石川理事長の5名が出席され来賓

あいさつを受けました。

山森会長からは労山と山岳協会の二つの団体が、スタートラインは違っても登山者の為に協力してやっていただきたい、と期待の言葉が述べられました。

日本山岳ガイド協会の磯野理事長の「ネット山岳会が1000人以上の規模で15団体以上存在し、仲間をこの指とまれで集めているが、危ない山はガイドを雇っている。クレバーだ。中学・高校の山岳部、ワンダーフォーゲルなどゆるやかなものが増えてきている」という話が印象に残った。

議事では、浦添理事長が基調報告を行った。その中で、11月23日～24日、愛知県民の森で「第17回全国登山研究集会」を愛知県連主管で開催することが報告された。「集会の目的は、①労山理念の普及と組織強化拡大による労山運動の継承、②日本の登山文化・登山技術の継承、③国民が求める多様な登山要求への対応とする」。「具体的な詳細内容については、主管県連と協議し早期に決定するとともに、開催要綱を全国の地方連盟に送付し、全国の仲間の参加と協力で成功させることとする」が強調された。遭難事故防止の活動と教育活動では、遭難事故の原因分析が取り上げられ、自然保護活動では、「労山自然保護憲章」を実践し啓発活動に取り組むこと、リニア新幹線工事の監視活動・現地調査も実施していることなどが提起された。また、ハイキング委員会からは、「2018全国ハイキング交流集会」を、9月15日～16日に静岡県伊豆長岡温泉で開催する。今回も、室内での集会は15日のみとし、16日は伊豆一帯での交流ハイキングを実施することが提起された。女性と登山では、「全国女性担当者会議を6月23日～24日に、全国連盟事務所で開催する。

「山筋ゴーゴー体操」の普及も強調された。「ROUSAN パートナース制度」の総括と今後の対応について提起された。

第3号議案では「新特別基金の規定と細則の改定について」であった。まず、基金制度の名称の変更として、現行：労山新特別

基金制度（新基金制度）を、改定案：労山山岳事故対策基金制度（労山基金制度）にするというもの。同細則の改定では、「援助者費用」を「現行の5万円限度から10万円限度として交付する。スキー場での事故の認定について、現行では、「①山行計画書のルートになっている場合、②会主催の山スキー講習会のほかは対象外とする。」となっているのを「①山行計画書のルートになっている場合の事故 ②会主催の山スキー講習会での事故 ③山スキーの装備で山スキーのトレーニング中の事故」となった。それから、「ROUSAN パートナース関連費用 最終総括（見込み）」では「パートナーズ会計が新特別基金（安全対引当金）からの借入金1750万円でもかかっている（2012年1000万円、2013年750万円 合計

1750万円）、最終的には2月末で完全閉鎖とすると約390万円の残高が残る見込み。これを2018年度会計で新特別基金に返済し、差額1360万円が欠損となる」などが報告された。

愛知県連から、望月、吉川の二人が発言し討論に参加した。望月は、①「ROUSAN パートナース制度」の総括について意見を述べた。総括案は、本質に切り込んでいない。「方向性は妥当だった」と言っているが、突っ込みが足りない。愛知県連では、当初から単独山行者は、組織になじまない、ドイツとは登山文化が違う、3人寄れば山岳会という本来の組織方針で行くべきだと議論してきた。総括にタブーがないか？タブーがあれば総括できない。制度を決定したとき、僅差だった。多数決は、少数意見の尊重が前提だ。今後とも十分な合意形成を考えるべきだ。民主主義を堅持することが大切と主張した。関連する意見は、京都府連、新潟県連からもこんないい加減な総括で、1360万円を欠損にするというのは認められないという意見が出され、討論のまとめで理事長は、来年の協議会までに検証を深めて提案するとした。②「事故事例集」について、発言しました。曰く、20数年ぶりに第2集を発行した。放置すれば、事故

関係者の記憶も不確かになり、資料も散逸してしまうギリギリの時点で編集委員会を立ち上げ発行に踏み切った。「事故事例集」を読み解き是非事故防止に役立てて欲しいと発言した。会場では、いくつかの地方連盟の代議員から事例集をまとめる作業の大変さや発行の困難さについてねぎらいの言

葉がかけられ、ある地方連盟からは、傘下の加盟団体数分の冊数を申し込まれました。最後に役員選挙が行われ、西本会長、洞井副会長が退任し、会長には佐々木副会長が選任されました。他の理事は留任しました。

自然保護部 6月3日は 第46回鈴鹿山系清掃登山開催

登山道のゴミを見つけるのが難しくなってきました。これも会員皆様の努力の賜です。ありがとうございます。さて今年も、6月の第一日曜日に開催します。

日時 2018年6月3日(日)

場所 御在所岳と藤原岳

その他 雨天決行

*清掃登山とは関係ないですが、5月20日(日)に藤原岳において外来種のハルサキヤマガラシの駆除作業を行います。奮って参加をお願いします。

遭対部 4月13日、春山合宿遭対連絡会議を行います

下記の通り、春山合宿遭対連絡会議を行います。合宿を取り組む山岳会は、コース別に計画書を作成し各30部持参して下さい。遭対担当者は、取り組みの有無にかかわらず出席して、山岳情報の共有し、計画書を検討する中で、危険予知など安心安全登山をどう進めるかを共に追求しましょう。

【とき】2018年4月13日(金) 19:30~21:00

【ところ】県連事務所

【出席者】リーダー(または代理)、遭対担当者(山行管理者)

遭対部 2月9日(金)、第5回遭難対策担当者会議を開きました

2018年2月9日(金) 19:30から県連事務所で、第5回遭難対策担当者会議を開き、12山岳会13名が出席しました。【出席者】鷺見(スルジェ)、水谷(ありんこ)、宮沢・山本(みどり)、松本(東三河)、天池(アリス)、洞井(半田F)、佐藤(かわせみ)、西尾(くらら)、望月(ふわく)、樋江井(若駒)、甲斐(あつた)、佐村(ASC)。

(1) 総会議案の審議(略)

(2) 事故報告(一部、『労山愛知』未掲載のものを含みます)

No.2 木の根にワカンの刃が引っかかり転倒、約40m滑落し、負傷

【発生日時】2017年4月1日(土) 12:25頃 【山城・山名】奥美濃・花房山

【事故者】男性、67才 【負傷の程度】左肩、左脇腹、右手甲の打撲。顔面裂傷。

【事故の概要】標高870mのコブを越え下りのコル手前2m付近で木の根にワカンの刃が引っ掛かり転倒、滑落、途中雪面もあり約40m滑り落ちる。足に異常はなくザイルで確保してコルまで上がり安全な場所で傷の手当てと昼食休憩し、気持ちが悪くなるのを待ち、下山は大事を取りアンザイレンで下りる。下山後、直接負傷者宅へより奥さん同行で近くの救急救命センターにてCTスキャン、レントゲン検査を受け、骨折無しで顔の傷の治療を受け帰宅。

No.17 登攀中、掴んだ岩がはがれ転落し負傷

【発生日時】2017年12月2日(土)12:25頃【山域・山名】各務原・伊木山

【事故者】男性54才 【負傷の程度】左胸の打撲、右膝の裂傷(3針縫合)

【事故の概要】事故者は、3ピッチ目をリードで登攀中、右手でつかんだ岩が荷重に耐えきれず剥がれ6mほど滑落シグランドホールした。滑落中、ビレイにより減速していたが、小テラスで左胸、落下地点で小さな切り株に右膝をぶつけ裂傷を負った。事故現場へ到着したCLと一緒に懸垂下降

でスタート地点に戻り応急処置を受け、病院へ向かう。

No.18 突然死

【発生日時】2017年12月17日(日)12:20【山域・山名】中ア・木曾駒ヶ岳

【事故者】男性61才 【負傷の程度】虚血性心疾患で突然死

【事故の概要】ロープウェイ利用で木曾駒ヶ岳に登頂したあとの帰路、12時ころ、中岳の登りにかかるあたりで先行していた同行者が振り返ると姿が見えず、少し戻って事故者が倒れているのを発見した。付近にいた他パーティの登山者とともに心肺蘇生を試みたが効果なく、たまたま医師が通りかかり死亡を確認した(12:20)。その後、遺体は駒ヶ根の警察及び民間の救助隊員によってロープウェイ駅まで運ばれ、夕方遅く(営業時間外)にロープウェイにて降ろした。

No.19 バリエーションルートを下山中、足を滑らせ転倒し骨折

【発生日時】2017年12月23日(土・祝)14:00【山域・山名】東三河・高畑山

【事故者】女性54才 【負傷の程度】肋骨2本骨折

【事故の概要】バリエーションルートの調査山行で、高畑山頂まで登り、下りは本来のコースは時間的に無理になり戻るコースを取った。急斜面に落ち葉が10~15cm積もって居り滑りやすく、且つその下は岩がゴロゴロしているため足場が悪い。その中をジグザグに下降。注意しながら進んだが、メンバーの一人が転倒し、脇腹付近を強打した。運悪く落ち葉の下にラグビーボール大の岩がありその岩で体側を強打し、肋骨を骨折した。

▲指摘・反省など

- ・予定のコースを外れて下降していた(後から分かったこと)。
- ・滑りやすい斜面では、体を傾けない。
- ・危険個所では、ロープ使用をためらわない。

No.20 アイゼンを木の根に引っかけ骨折

【発生日時】2018年1月3日(水)13:40頃【山域・山名】鈴鹿・御在所岳

【事故者】女性、64才 【負傷の程度】右脛骨後十字靭帯付着部剥離骨折

【事故の概要】裏道から御在所岳をめざしたが、積雪が多く国見峠手前で引き返し、SLとして先頭で大きな段差を下降中、木の根にアイゼンを引っかけ転倒、1mほど下に落ち右膝を痛めた。痛みは感じるものの、歩ける状態だったので自力下山。打撲だろうと思っていたが、帰宅してから痛みと腫れがひどくなり病院を受診、骨折が判明した。

No.21 しもやけ

【発生日時】2018年1月7日(日)【山域・山名】八ヶ岳・赤岳主稜

【事故者】女性、40才 【負傷の程度】しもやけ(右足第1指、第2指)

【事故の概要】赤岳主稜登攀。気温マイナス10℃程度、強風。事故者は、末端部位が冷えやすい体質の認識はあったが、山行中は気づかなかったが、下山後、温泉に入り、右足第1指、第2指が赤く腫れていることを確認し、受診した。

▲指摘・反省など

- ・冬山合宿での事故。冬山合宿遭対報告会議時には、事故報告なし。

No.22 凍傷

【発生日時】2018年1月14日(日)【山域・山名】八ヶ岳・阿弥陀岳、赤岳

【事故者】男性、42才 【負傷の程度】軽度の凍傷

【事故の概要】阿弥陀岳北稜登攀過程で、両足指先に軽度の凍傷を負った。上部取付きで、先行パーティ3組および本パーティ3組の登攀とやや渋滞状況にあった。登頂後、中岳方面からの下山を予定していたが、トレースがなくラッセルを強いられるため、来た道を懸垂下降で降下し、停滞時間が長くなった。

▲指摘・反省など

- ・冬山合宿での事故だが、冬山合宿遭対報告会議時には、事故報告なし。足のしびれを訴え、赤岳主稜アタックを辞退した。その後しびれが治らず受診した。
- ・前夜、酒を飲み過ぎない。
- ・トウキシギャクカゴシュユシヨウキョウトウ（漢方薬）も効くという仲間がいます。一度試してみてもいい。

No.23 転倒し骨折

【発生日時】2018年2月3日（土）10：20頃 【山城・山名】愛知・猿投山

【事故者】女性、70才 【負傷の程度】右大腿骨顆部骨折

【事故の概要】猿投山の急坂下りで、バランスをとるため、目の頼れそうな手がかりが生木と見えたので手をつかみ体を預けたところ枯れ木であったため折れた。その時、態勢を調えようと試みたが体が反転し咄嗟に右足をついた。この時に痛めたと思われる。膝が立たなくなり、数歩で自力歩行不能となった。応急処置し事故者の意思でビニールシートをお尻に敷いて急斜面を滑るようにして平坦地まで移動。その後男性3名が交代で背負い林道まで運んだ。マイクロバスで瀬戸陶生病院へ搬送。受診・入院し、2月7日手術を受けることになった。

▲指摘・反省など

- ・38名でオリエンテーション。この規模で、猿投山は、標高は低いが、急坂もありオリエンテーションの対象として再考の必要がある。
- ・この時期は、生木、枯れ木の区別が難しい。

(3) その他

Q：ある会から、留守宅を決めるのが面倒だ、会員を家族にしてもいいか？

A：計画書の中でも、重要な事項で、山行に出発から、下山するまで、メンバーの安全を見守る役割。もし、事故が発生すれば、速やかに初動体制に移行するための処置がとれる仲間であれば意味がない。だから、誰でもいいというわけにはいかない。形式ではなく、留守宅本部の意味をしっかりと把握した仲間に依頼する。正確に記入すること。

事務局よりお願い 求む 掃除機！

県連事務所のお掃除用に掃除機を探しています（2台程度）。もしご家庭にあまっている古い掃除機などがありましたら、是非ご寄付をお願いします。引き渡しは、なるべくご負担をかけないように、誰かが取りに行くなどの配慮をさせていただきます。

ご連絡は、eメール：aichirousan@gmail.com または090-7601-8294（井土）まで



【編集後記】

本年度、事務局次長を仰せつかりました。まだ分からないことばかりですが、活動が滞ることのないように出来るだけのことをしていきたいと思っております。ご協力をよろしくお願いいたします。（東海：井土）

ご意見、ご要望・投稿などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com

第50期 年間計画

2018年3月～2019年2月

3月		4月		5月		6月		7月		8月						
1	木	1	日	登山学校 理論①	1	火	1	金	遭対部会②	1	日	全国遭対	1	水		
2	金	2	月	登山学校 理論②	2	水	2	土		2	月	登山学校 理論⑭	2	木		
3	土	3	火		3	木	3	日	第46回清掃登山	3	火		3	金		
4	日	第50期総会	4	水	組織部会②	4	金	4	月	登山学校 理論⑨	4	水		4	土	
5	月		5	木	理事会③	5	土	5	火		5	木	女性のつどい④ 教育部会③	5	日	
6	火		6	金		6	日	6	水		6	金		6	月	
7	水		7	土	救助隊交流会	7	月	7	木	女性のつどい③ 教育部会②	7	土	登山学校実技 M6C8	7	火	
8	木	事務局会議①	8	日	救助隊交流会	8	火	8	金		8	日		8	水	
9	金		9	月	登山学校 理論③	9	水	9	土		9	月		9	木	
10	土	[東海総会]	10	火		10	木	10	日	一般登山講座⑦ 登山学校実技C5	10	火		10	金	山の日記念全国集会
11	日		11	水	清掃登山実行委員会②	11	金	11	月	確保技術(机上)・ 登山学校理論⑩	11	水		11	土	山の日記念全国集会
12	月		12	木	女性のつどい① 教育部会①	12	土	12	火		12	木		12	日	
13	火		13	金	春山合宿遭対連絡会議	13	日	13	水	一般登山講座⑤⑥ 登山学校実技C3	13	金	夏山合宿遭対連絡会 議	13	月	
14	水	組織部会①自然保護①	14	土	登山学校実技MC1	14	月	14	木	登山学校 理論⑥	14	土		14	火	
15	木	理事会①	15	日	一般登山講座③④ 登山学校 実技MC1	15	火	15	金	清掃登山実行委員会⑤	15	日		15	水	
16	金		16	月	登山学校 理論④	16	水	16	土		16	月		16	木	事務局会議⑥
17	土		17	火		17	木	17	日	確保技術実技 登山学校実M4C6	17	火		17	金	
18	日		18	水		18	金	18	月	無雪期救助訓練机上 登山学校理論⑪	18	水	組織部会⑤	18	土	
19	月		19	木	事務局会議②	19	土	19	火		19	木	事務局会議⑤	19	日	登山学校実技M7C9
20	火		20	金		20	日	20	水	一般登山実技③ 藤原岳ハルガキ駆除 登山学校 実技4	20	金		20	月	
21	水		21	土		21	月	21	木	登山学校 理論⑦	21	土		21	火	
22	木		22	日	一般登山実技② 登山学校 実技MC1	22	火	22	金	6/23-24全国女性 担当者会議	22	日		22	水	
23	金		23	月	登山学校 理論⑤	23	水	23	土	救急救命法 登山学校理論⑫	23	月		23	木	理事会⑧
24	土	理事会②	24	火		24	木	24	日	無雪期救助訓練実技 登山学校実M5C7	24	火		24	金	
25	日	一般登山講座①②	25	水	清掃登山実行委員会③	25	金	25	月	登山学校 理論⑬	25	水		25	土	登山学校実技 M8
26	月		26	木	理事会④	26	土	26	火	登山学校実技M3	26	木	理事会⑦	26	日	
27	火		27	金		27	日	27	水		27	金		27	月	
28	水	清掃登山実行委員会①	28	土		28	月	28	木	登山学校 理論⑧	28	土		28	火	
29	木		29	日		29	火	29	金		29	日		29	水	
30	金	遭対担当1	30	月		30	水	30	土	清掃登山実行委員会⑥	30	月		30	木	
31	土	一般登山実技①				31	木				31	火		31	金	夏山合宿遭対報告会議

9月		10月		11月		12月		1月		2月	
1	土	1	月	1	木	1	土	1	火	1	金
2	日	2	火	2	金	2	日	2	水	2	土
3	月	3	水	3	土	3	月	3	木	3	日
4	火	4	木	4	日	4	火	4	金	4	月
5	水	5	金	5	月	5	水	5	土	5	火
6	木	6	土	6	火	6	木	6	日	6	水
7	金	7	日	7	水	7	金	7	月	7	木
8	土	8	月	8	木	8	土	8	火	8	金
9	日	9	火	9	金	9	日	9	水	9	土
10	月	10	水	10	土	10	月	10	木	10	日
11	火	11	木	11	日	11	火	11	金	11	月
12	水	12	金	12	月	12	水	12	土	12	火
13	木	13	土	13	火	13	木	13	日	13	水
14	金	14	日	14	水	14	金	14	月	14	木
15	土	15	月	15	木	15	土	15	火	15	金
16	日	16	火	16	金	16	日	16	水	16	土
17	月	17	水	17	土	17	月	17	木	17	日
18	火	18	木	18	日	18	火	18	金	18	月
19	水	19	金	19	月	19	水	19	土	19	火
20	木	20	土	20	火	20	木	20	日	20	水
21	金	21	日	21	水	21	金	21	月	21	木
22	土	22	月	22	木	22	土	22	火	22	金
23	日	23	火	23	金	23	日	23	水	23	土
24	月	24	水	24	土	24	月	24	木	24	日
25	火	25	木	25	日	25	火	25	金	25	月
26	水	26	金	26	月	26	水	26	土	26	火
27	木	27	土	27	火	27	木	27	日	27	水
28	金	28	日	28	水	28	金	28	月	28	木
29	土	29	月	29	木	29	土	29	火	1	金
30	日	30	火	30	金	30	日	30	水	2	土
		31	水			31	月	31	木	3	日